

病害虫講座-43

(ヤマノイモの病害虫)

木村 裕

野山で勝手気ままにはびこっているヤマノイモでは病害虫の発生はほとんど見られませんが、いざ栽培すると害虫や病原菌はぬけめなくやってきます。

【ヤマイモハムシ】

頭が赤くて、体が青色のツートンカラーの綺麗な甲虫がヤマノイモの葉をかじって孔をあけます。表面を浅くかじられた葉はその部分が褐色になって枯れます。一匹や二匹では実害はありませんが、大挙してやってくると被害甚大です。

幼虫も葉をかじりますが、自分の糞を背中に載せて姿を隠しています。外見は泥の塊がついたようで、動きがほとんどないのでまず気が付かないでしょう。

防除は薬剤を散布するか、手による捕殺です。



【ヤマノイモコガ】

葉の裏に小さなアオムシ（淡黄緑色で地味で目立たない）がへばりつき、葉を浅く食害します。そのため、食害を受けた部分は半透明になります。



成虫は地味な小さな蛾ですので、まず見つかりませんし、何も悪さはしません。

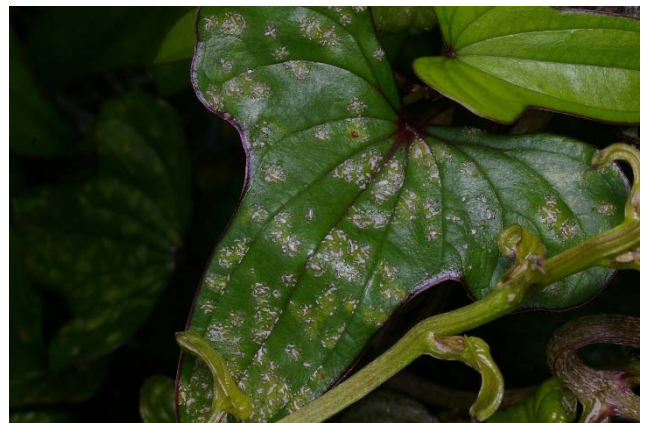
とくに防除する必要はないでしょう。

【葉波病】

葉に淡黄色で小さな丸い斑紋が現れ、その上に白い粉のような物が付着します。

通常はあまり発生しませんが、ときおりドカッと多発します。

予防的には支柱をたて、風通しをよくします。多発すると、薬剤散布しても防除はなかなか難しいです。



【キイロスズメ】

尾端に角のような突起を備えた大きなイモムシが葉をむしゃむしゃと暴食します。数は少なくても体が大きいので食べる量は馬鹿になりません。見つけたら手で捕えましょう。体色には緑色タイプと褐色タイプがあります。

